

仁王經齋會供養料

僧一口別菜葉料○中 生大豆二合 漬菜料

九月九日節料 生大豆五位已上 二把

〔古事談三僧行〕慈惠大僧正ハ、近江國淺井郡人也、叡山戒壇ヲ依不合期、人夫エツカレザリケル比、淺

井郡司ハ、相親之上、師檀ニテ修佛事之間、此僧正ヲ奉請、僧膳キコエムトテ、前ニテ大豆ヲイリテ

酢ヲ掛ケルヲ、僧正ナニシニ酢ヲバ懸哉ト被問ケレバ、郡司云、温時懸酢ツレバ、酢ムツカリトテ、

ニガミテヨクハサマレ候也、不然バスベリテハサマレヌ也云々、

〔大草家料理書〕一のたあへ繪は、酒のかすを能摺て、大豆の粉を入れて、花鯉を摺てませて、魚に鮮を掛てあへる也、

〔爲房卿記〕康和三年七月七日早旦、向日飲大豆七枚小豆七枚、是例事也、避病之秘術、

〔牧民金鑑十一〕享保十八丑年月御書付

時疫流行の節、此藥を用ひて其煩をのがるべし、

一時疫は、大豆大つぶなるを能いりて壹合、甘草壹匁、水に而せんじ出し、時々吞てよし、右醫經に

出ル○下

〔延喜式十三圖書〕凡年料裝○。用度○。中大豆五斗糊料

〔延喜式十六陰陽〕凡造曆用度者○。中糊料。大豆三升三合、

〔朝野群載十五陰陽道〕陰陽寮解 申請寫來年料曆用物事

合曆百七十九卷○中

大豆五升○紙讀料○中略

右寫來万壽三年曆料、用度雜用料、依例陰陽寮所請如件、